KOICHI HAMADA 浜田 宏一

- **国際経済と日本経済に関する世界有数の専門家**
- **「アベノミクス の背後にある頭脳 」**

LONDON SPEAKER BUREAU

Topics

- Analysts
- Asia
- Economics

彼は国際的に有名な経済学教授、日本政府の経済顧問、そして IMFとWTO の経済コンサルタントとして優れた経歴を持っています。現在は、安倍晋三総理大臣の経済特別顧問、エール大学のTuntex 経済学教授、および東京大学名誉教授を務めています。日本の新聞は浜田を「 アベノミクスの背後にある頭脳 」と呼んでいます。これは彼の日本の首相の経済政策に対する強力で助言的な影響を言及しています。

2006年、国及び地方公共団体の公務、または、公共的な業務者に与えられる勲章の中で二番目に高い名誉である「 瑞宝重光章 」授与されました。

1986年7月からエール大学で経済学教授、2005年12月からTuntex経済学教授を務めています。現在の研究テーマは、国際資本移動、地域統合、国際通貨改革の政治経済学、日本の経済学と政治です。過去10年間と日米の法制度の経済的機能の比較。国際通貨関係に関する彼のゲーム理論的研究は、相互依存諸国におけるマクロ経済政策の戦略的側面に注目を集めた最初の研究の1つと見なされています。

1997年、浜田はIMF理事会の構造強化調整施設 (ESAF) プログラムの外部評価チームのメンバーを務めました。その後、1998年から2001年にかけて、日本経済計画庁経済研究所の上級顧問を務めました。2001年から2002年までは WTO事務局長のMikeMooreに助言を行ったコンサルティンググループのメンバーでした。世界貿易システムの将来展望、そして2003年に彼はまたMooreの後継者であるSupachai Panitchpakdiにアドバイスを与えていました。2001年から2003年の間に、ハマダは日本政府の内閣府で、経済社会研究所 (ESRI) の初代総長を務めました。

彼は、アメリカ芸術科学アカデミーの選出会員であり、計量経済学会のフェローでもあり、1980年から1985年まで評議員を務めている。1994年から1995年まで日本経済経済学会会長 (現日本経済協会) 、2003年には日本法経済学会の創立会長 (現在はその名誉会員) も務めました。

浜田は、Econometrica International Economics Journal of Economic Theory Journal of Public Economics Journal of Development Economics Journal of the Japanese と International Economies を含む多数のジャーナルの編集者を務めています。ゲーム理論を最初に国際金融に適用した政策協調に関する彼の研究は、「 国際通貨相互依存の政治経済学 」として出版されました (1985)。彼の他の多くの重要な出版物の中には、「 日本の高齢化と労働市場：問題と政策 」(2007年)、「 夢とジレンマ：アジア太平洋地域における経済的摩擦と紛争解決 」(2000年)、国際経済学：浜田耕一著 (1996)

info@londonspeakerbureau.my +603 2301 0988